

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年03月18日

計画の名称	富山駅を中心とした都市拠点の整備（交通拠点連携集中支援）												
計画の期間	平成30年度～平成34年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	富山県												
計画の目標	富山県の県都の玄関口としてふさわしい、賑わいのある魅力ある駅周辺の整備を行う。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,472	A	1,472	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (H32末)	最終目標値 (H34末)
1	在来線高架化の実施により、富山駅周辺の歩行者交通量を約37,000人（H30）から約39,000人（H34）に増加させる。 富山駅周辺の調査6地点の歩行者交通量（休日）	37000人/日	38000人/日	39000人/日

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

富山県土木部都市計画課

事後評価の実施時期

令和3年3月

公表の方法

富山県のホームページ

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・ 在来線の高架化に伴い駅周辺の整備が行われたことにより、魅力が向上した。
- ・ 路面電車が高架下で南北接続したことで、富山駅における交通結節機能が強化され、公共交通の利便性が向上した。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

今後も引き続き連続立体交差事業の一日も早い完成を目指して事業進捗に努める。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	39000人/日	評価時点において、新型コロナウイルス感染症の影響による外出控えに起因して歩行者通行量が大きく減少したためと想定される。
	最終実績値	34950人/日	

参考図面（社会資本整備総合交付金）

